

九州がんセンターについて

当院は 1972 年に国立病院九州がんセンターとして設立され、現在は独立行政法人国立病院機構が運営する 411 床のがん専門病院です。九州全域から患者が集まる高度専門医療施設であり、診断から治療、緩和ケアまで幅広い医療を提供しています。臓器別の診療科が充実し、外科・内科・放射線治療科が連携した集学的治療を実践していることが特徴です。また、治験・臨床試験やトランスレーショナルリサーチにも積極的に取り組み、新しい治療法の開発と普及に努めています。国が指定する「都道府県がん診療連携拠点病院」として、福岡県のがん医療を牽引する役割を担っています。長年にわたり、拠点病院の責務として精度の高い「院内がん登録」を実践し、自院のがん医療の質の評価・向上に努めてまいりました。この臨床現場に根差した登録業務の経験と専門知識が、私たちの強みです。

福岡県のがん登録事業と 福岡県がん登録室について



福岡県は、地域がん登録事業を平成 23 年 8 月に開始し、2011 年診断症例から（拠点病院は 2009 年診断症例から）登録を行っています。この度、2024 年 5 月をもちまして、これまで福岡県保健環境研究所が担ってこられた福岡県の全国がん登録事業を、当センターが引き継ぎ、「福岡県がん登録室」として新たに業務を開始いたしました。院内では、がん統計センター下に院内がん登録室、全国がん登録室と別組織として構成されています。全国がん登録室としては、室長 1 名、室員 5 名の計 6 名で実務を担当しています。

現状と課題

長きにわたり本事業の礎を築いてこられた福岡県保健環境研究所の皆様には、心より感謝申し上げます。そのご尽力により整備された登録基盤を円滑に継承し、臨床現場の知見を最大限に反映させることで、より質の高いがん登録システムを構築することを目指します。新体制への移行に伴い、私たちが取り組むべき課題は明確です。まず、県内多数の医療機関との連携をさらに密にし、がん登録を適切に実施する人材育成を含めた届出の促進と質の均てん化を図ることです。2020 年（令和 2 年）罹患症例における登録精度 DCO1.9%、MI 比 0.41 を中心とした精度管理指標の維持改善に継続的に取り組む必要があります。そして最大の課題は、第 4 期福岡県がん対策推進計画に基づき、収集したデータを単なる統計情報に留めず、「生きた情報」として県のがん対策、臨床研究、そして県民への情報提供へと戦略的に活用していくことです。当センターが持つがん診療の専門知識を活かし、病期分類や治療内容の正確性を高め、データの価値を最大化してまいります。

最後に

福岡県のがん対策を根底から支えるこの重要な事業を担うにあたり、身の引き締まる思いです。また、全国がん登録の業務を進めるにあたり、施設見学やご助言など多数ご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。今後は、日本がん登録協議会の皆様からのご指導ご鞭撻を賜りながら、職員一同、事業の発展に全力で取り組んでまいります。皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

全国がん 登録室 紹介



国立病院機構
九州がんセンター
全国がん登録室

福岡県は九州北部に位置し、人口約 509 万人（令和 7 年 8 月）を擁する九州最大の県です。北九州市、福岡市の両政令指定都市を含む 60 の市町村で構成され、地理的、歴史的、経済的、社会的特性などから、大きく、北九州、福岡、筑後及び筑豊の 4 地域に分けられます。県内には九州大学病院、九州がんセンターの県がん診療連携拠点病院 2 カ所、21 の地域がん診療連携拠点病院、1 つの地域がん診療病院が指定され、24 施設からなる包括的ながん診療ネットワークを形成しています。

2025,09 fukuoka